

資料 1

平成24年度第25回震災復興推進本部会議提案 審議・報告

提出日：平成25年3月25日

担当部・課：建設部河川港湾室〔内線5606〕

①件名
いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の一部変更について
②施策等を必要とする背景及び目的（理由）
<p>【背景及び目的】</p> <p>いしのまき水辺の緑のプロムナード計画は、水辺を活かしたまちづくりの整備の方向性を示すものであり、市民と水辺との深い関わりや歴史・文化等を踏まえ、旧北上川の堤防整備と一体として、人々が集い憩える散策路・空間等を創出するため、平成23年2月に策定した。</p> <p>その後、震災復興基本計画において、沿川の新たな土地利用が生じたこと等により、震災復興基本計画や旧北上川の堤防整備を踏まえ、計画の骨格は継承しつつ、一部見直し（案）を取りまとめ、平成24年度第17回石巻市震災復興推進本部会議の審議を経て、各種説明会にて概要説明を行うとともに、パブリックコメントにより住民の意見を聴取した結果、一部見直し（案）の内容変更を必要とする意見は寄せられなかったため、平成25年3月14日、一部見直し（案）をもって、当初計画に対する変更計画とした。（見直し計画の策定）</p>
③根拠法令及び総合計画又は個別計画との整合性
<p>【根拠法令】なし</p> <p>【復興基本計画との整合性 個別計画の位置付け：有・無】</p> <p>第3章 施策大綱1 3減災まちづくりの推進 (2) 津波減災施設の復旧・復興</p> <p>第3章 施策大綱3 2川とともに生きる (1) 中心市街地商店街の復旧・復興</p> <p>第3章 施策大綱3 4地域資源を活かす (1) 観光業・施設の再生復興</p> <p>第5章 重点プロジェクト 1安心安全再生プロジェクト, 3まちなか再生プロジェクト</p>
④提案に至るまでの経過（市民参加の有無とその内容を含む。）
<p>平成23年 2月 いしのまき水辺の緑のプロムナード計画策定（当初計画）</p> <p>平成23年 3月 東日本大震災発災</p> <p>平成24年10月 『第3回計画懇談会』を開催。一部見直し（案）を取りまとめた。</p> <p>平成24年11月19日</p> <p>平成24年度第17回石巻市震災復興推進本部会議にて、『いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の一部変更について』審議し、今後、住民説明会等にて一部見直し（案）の説明を行い、意見を聴取し、見直し計画を策定することについて承認を得た。</p> <p>【住民説明会等】平成24年10月～平成25年1月</p> <ul style="list-style-type: none">・『市民とのまちづくり意見交換会』にて一部見直し（案）の概要説明（約150名参加）・中央一丁目14・15番地区復興まちづくり事業推進協議会『街づくり等に関する説明と意見交換』にて一部見直し（案）の概要説明（約30名参加）・中央二丁目11番地区まちづくり協議会『街づくり等に関する説明と意見交換』にて一部見直し（案）の概要説明（約20名参加）・『いしのまき公園ワークショップ』にて一部見直し（案）概要版を配付

- ・『旧北上川河口部堤防護岸復興着工式』にて一部見直し（案）の概要説明。
- ・『いしのまき公園ワークショップ』にて一部見直し（案）を説明。質疑応答を行った。（河川港湾室、東北学院大学齋藤教授）

平成24年12月21日～平成25年1月20日（1か月間）

市民から意見を聴取するパブリック・コメントを実施。

※持ち帰り資料数69部、寄せられた意見数2名22件

平成25年 3月14日

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の一部見直し（案）を変更計画とした。

⑤主な内容

いしのまき水辺の緑のプロムナード計画の一部見直し

当初計画からの主な見直しは以下の通り

- ・拠点B：震災復興基本計画に基づく祈念公園構想を基に旧計画の拠点A（臨港緑地）と拠点E（マリーナ）を集約
- ・拠点D：中瀬に加えて住吉公園や雄島付近も一体となった歴史・文化的拠点として改めて位置付け
- ・ルート③：震災復興基本計画に基づく居住と産業の土地利用を踏まえ、人の集いと憩いの拠点機能を合わせ持つルートとして役割の変更
- ・ルート⑥：新たな堤防整備に合わせて新規ルート設定

以上の一部見直しについて住民意見を聴取した結果、一部見直し（案）の内容変更を必要とする意見は寄せられなかった。なお、寄せられた意見については、今後の具体的な内容検討を行う際の参考とする。

⑥実施した場合の影響・効果（財源措置及び複数年のコスト計算を含む。）

(1) 事業の効果（市民への影響）

石巻は、川と海に囲まれた地の利を活かし、水辺との繋がりによって生活の糧を得、発展してきた。

復興のまちづくりでは、住まいの再建と産業の再生が最優先されるが、単に市街地に住まいを再建するだけでなく、津波や高潮に対して安全を確保する河川堤防を活かしたプロムナード計画の実施により、石巻の発展の礎となってきた河川や水辺との繋がりを保ちつつ、歴史や文化を伝承し、市民が集い、にぎわい、憩える、高質な空間を創出することで、石巻らしい新たなまちづくりが可能となる。

(2) 市行財政の負担（財源措置及びコスト計算）

事業費は、復興交付金等の活用を検討する（実施年度は財源確保に合わせて検討）。

⑦他の自治体の政策との比較検討

広島市・新潟県等の事例を研究した。

⑧今後の予定及び施行予定年月日

事業の実施に向け、財源の確保、基本設計、実施設計を進めていくとともに、かわまちづくり支援制度に登録し、国によるハード、ソフト支援を求めていくとともに市の整備内容を検討する。

計画変更年月日：平成25年3月14日

⑨その他

プロムナードの利活用の促進に向けて利活用推進体制を立ち上げ、サイン計画、歴史文化の学習、観光振興及び利便性の向上等、市民と協働した取り組みの準備をしていく。